

# 平成30年度 事業計画書

(自 平成 30 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 11 月 30 日)

公益財団法人つなぐいのち基金

## <目次>

1. 基本方針 .....	3
2. 公益目的事業の事業計画/事業展開 .....	4
■公益事業目的 .....	4
■事業概要 .....	4
助成事業 .....	4
■平成30年度計画主旨 .....	4
■平成30年度の目標値 .....	5
■マイ基金（冠基金）についての平成30年度計画主旨 .....	5
3. リソースの調達について .....	6
■平成30年度計画主旨 .....	6
【財務的基盤のため】 .....	6
■賛助会員 .....	6
■寄付 .....	7
【人的・技術的リソース基盤のため】 .....	8
■特徴ある助成事業の確立に向けた取り組み .....	8
■支援に向けた広報・啓発活動について .....	9
■高校生およびNPO 法人との協働プロジェクト .....	9
4. 管理運営体制 .....	10
■組織体制強化の必要性 .....	10
■財団全体のガバナンスのための評議員、監事の拡充 .....	10
■助成選定委員会 選考委員の拡充 .....	11
■運営体制 .....	12

# 1. 基本方針

## ■事業の趣旨 『高齢者と子どもなどの多世代を「つなぐ」ことでつくる、地域を限らないコミュニティ財団』

本事業は、助成事業を通じて、社会的ハンデを抱える子どもの福祉の増進、心身の健全な育成、自立の支援、世代間の資源循環を促進します。具体的には、当財団のボランティア活動等への参加による高齢者の活性化と生きがい創出などにより世代間相互支援の推進し、助成金交付による金銭的支援と同時にボランティアによる時間やサービスによる非金銭的支援を組み合わせ「つなぐ」仕組みをつくることで、相乗効果を発揮させ、多世代間での様々なリソースの円滑な循環と相互扶助のかたちを構築の一助となり、より良い社会を次の世代につなぐことを目的とします。

超高齢社会である我が国の高齢者は経済面だけでなく、経験、スキル、時間や暖かな気持ちなど、本当に多くのリソースを有していますが、消費や金融資産の継承では充足できない生きがいや幸福感が欠如し、また、引きこもりや孤立が進んでいます。助成事業は、多くの高齢者の力などの十分には機能していない「ソーシャルなリソース」を、フェアなスタートラインに立つことができない子どもたちとその支援活動に「つなぐ」こと、そして、背景となる知識を有しない個人では比較的難しい「応援する対象を選ぶ」お手伝いをするこでのコミュニティ参加の推進を意図しています。

一方、代表的な指標として「相対的な貧困率」の上昇が示す通り、格差が進み、社会的にハンデを抱えながら次代を担う責務を負っていく子どもたちは、OECD 諸国と比較しても特筆すべき厳しい状況に置かれています

また、社会的成功や自立には非認知能力の獲得が重要であることが分かってきておりますが、ハンデを抱える子どもたちは、この獲得の機会も著しく不足しているのが現状です。

とともに、このように、一見すると支援をされる側であると思われていた対象の方々同士が、お互いに不足しているものを補い合う相互扶助の仕組みを構築していくことで、社会の効率を高め、次世代に負の遺産を押し付けない社会づくりに寄与することを目指します。

## 《平成 30 年度の事業計画における目標》

公益移行認定より 3 年余りが経過し、また、内閣府公益認定等委員会事務局による初めての立ち入り検査も実施されました。スタートアップ公益法人から脱却していくため、財務基盤の確立を最優先事項とし、同時に公益目的事業である助成事業をより充実させていくことに注力することで事業全体の基盤強化をしていきます。

また、高齢者を中心とした多世代から次代を担う子どもたち世代への資源循環と相互扶助関係の構築を目指すと同時に、助成事業の運営で生まれる様々な価値ある無形資産も有効活用する仕組化に取り組んでいきます。

- ◆公財団法人として、必要となる財務基盤の強化を引き続き最優先とする。
- ◆公益法人として社会から信頼されるための事業のフィージビリティとガバナンスの確保を推し進める。
- ◆平成 31 年度以降の事業展開も視野に、助成事業の革新と実績を積み重ね公益の増進に寄与する

## ■助成事業スケジュール想定と考え方 (年度開始時は認定後である前提)

2018 年度 1Q	業務執行(業務委託を含めた)の運営体制の確立 過去助成先の法人および事業運営状況の調査(取材)実施 マイ基金の本格募集の準備
2018 年度 2Q	マイ基金の本格募集開始 マイ基金助成金の募集を開始 マイ基金助成金の選考 提供を開始
2018 年度 3Q	継続助成等の新たな助成プログラムの準備 5 周年記念イベントの準備・開催 決算月変更の対応
-----	
2019 年度 1Q	平成31年度対象事業 助成募集

## 2. 公益目的事業の事業計画/事業展開

### ■公益事業目的

社会的ハンデを抱える子どもたちを支援する施設・団体を通じた金銭的および非金銭的支援による助成事業。

### ■事業概要

具体的には、高齢者をはじめとした一般市民や企業等の社会貢献への志を尊重し最大限に生かすため

- ・民間公益活動を推進するための寄付や冠基金等により必要な資金等の資源を募り確保
- ・社会的課題を啓発するためのイベント・コンテンツの提供・広報活動
- ・ボランティア活動等サポートでの高齢者の活性化と生きがい創出による世代間相互支援の推進

などを実施し、家庭での虐待や貧困、親との死別、重度の病気や障害のため闘病生活など、社会的養護を必要とする0歳から20歳の子どもたち(自立を控えた20歳超の若者を含む)を養護、支援する施設、団体に対して、助成金支給などの金銭的支援とともに人的リソースやスキルを活用した非金銭的支援を組み合わせる助成事業を行います。

---

### 助成事業

---

#### ① 助成金事業

児童福祉を主目的とした事業、活動、プロジェクト等を対象とし、法人、団体、施設へ助成金を支給します。

#### ② 助成に付随した事業

助成先の対象事業の進捗状況の確認と効果測定を兼ねたハンズオン支援を実施します。

### ■平成30年度計画主旨

#### ○特徴ある助成財団として社会的ニーズの変化に対応すべく、新たな助成プログラムを策定・実験導入します。

平成30年度は、独自助成プログラムの開発と本格導入の準備年と位置づけ、下記を実施する。

- ・継続助成の導入開始(設定した要件をクリアする条件で1年更新型の最大3年の継続助成)
- ・事業アイデアとオペレーションのマッチング型助成のテスト
- ・継続助成の更新判断情報取得ためのリサーチを兼ねた助成先ハンズオン支援
- ・つなぐいのち基金の助成先ネットワークづくりの準備

#### ○平成30度は決算月の変更により、助成募集・支給は事業年度をまたいでの実施とします。

- ・12か月分の8か月相当額(150万円に対して100万円)を次年度助成原資の指定正味財産とします。
- ・上記の指定正味財産を平成31年度に一般正味財産に振替、50万円を加え150万円とします。
- ・当該150万円を、平成31年度事業対象助成金の支給原資とします。  
(※ 上記に加え、平成30年度より繰越30万円をプラスして180万円を支給原資とします)

※ 次年度以降も、収益状況に応じて100~150万円を次年度対象事業の助成金原資とすることで、受益者に不利益(助成額・回数が減る等)がなく、また当財団事業年度と助成募集対象年度を一致させることで分かりやすくすることを意図しております。

(11月決算となりますので、平成30年度の事業月は8か月となります。)

#### ○平成30年度は平成29年度に設定し助成募集ができていない50万円のマイ基金助成を実施します。

#### ○過去助成先の助成後の状況を調査(取材)し、助成効果を検証すると共に、当財団の助成先同志の協働などを意図したネットワーク化を模索し準備をします。

## ■助成事業(想定)スケジュール

- 2018.05 過去の助成先の調査(取材)の実施
- 2018.08 マイ基金助成先の募集
- 2018.10 マイ基金助成先の選考会実施・支給  
過去の助成先の調査まとめ(5周年記念誌にて結果報告)
- 2018.11 公募準備 (WEB 中心)  
賛助会費の収益状況、および「マイ基金」からの支給額の集計  
理事会にて助成金総額を決定

(以降 平成 31 年度事業計画を掲載)

- 2018.12 助成金 公募 (約 2 か月間を予定)
- 2019.02 選定委員会 開催(事前に基礎調査選考実施)  
契約書を含む助成金支給申請書類の受領後、助成金支給 実施
- 2019.03 助成金受領書 回収
- 2019.04~ 助成対象事業の進捗状況と必要性に応じて、当財団ボランティアによる支援を実施  
取材を通じた広報と実績確認
- 2019.12 進捗状況の確認
- 2019.02 終了確認 (未了のものは期間延長等の変更申請書を取得)
- 2019.03 実績報告、収支報告を取得、確認後助成終了

## ■平成30年度の目標値 (平成 31 年度支給となる平成 31 年度対象助成事業も掲載)

- ① マイ基金助成 50万円支給
- ② 年1回のつなぐ助成金支給総額 180万円 (助成額 10~50万円 × 4~7団体)  
※ 次年度以降は、50万円はマイ基金を原資とする。②は平成 31 年度に選考・支給となります。  
※ ②の内、募集状況に応じ、継続助成およびマッチング型助成を選考し支給します。

### 【選考・調査費用】

助成先の選考に関わる費用、および助成金支給先へのボランティアによる事業の推進支援を行うための必要となる費用を予算として計上しています。

調査・取材費	97,500 円	謝金等	30,000 円	旅費交通費	58,500 円
					計 186,000 円

## ■マイ基金(冠基金)についての平成30年度計画主旨

社会的要請やニーズや実数との乖離がないか慎重にウォッチしていきながら、本格的な募集・運用へと移行していく年度とします。地域コミュニティではなく世代間を意識した「冠基金」として認知向上と定着化を目指します。

### 【平成30年度目標総額】

1,650,000 円 (永続年金 80 万円、期間年金 85 万円 うち 50 万円を一般正味財産への振替)

### 【費用】

マイ基金の募集・管理のためにサイト更新、印刷物・勉強会開催などの費用を予算計上しました。

計 100,000 円

## 3.リソースの調達について

### ■平成30年度計画主旨

平成26、27、28年度は、リソースを確保の上で、本格的な賛助会員獲得を計画しておりましたが、オフィシャルサポート企業の新興市場への上場および市場替えにより人的、経済的リソースの支援の終了についての再検討の打診がありました。その結果として、オフィシャルサポートの終了、ライフエンディング業界法人向けの賛助会員会費を前提として財務基盤からの変更を余儀なくされました。

このような状況で急務である、財務基盤の確立を最優先事項として計画をいたしました。

まずは、平成29年度から5年間は、これまでの取組みをさらに促進するとともに、元オフィシャルサポートの経営者でもある当財団理事からの株式上場益の個人寄付を総額で2000万円を確保しています。

次に、これまでオフィシャルサポート企業を配慮し活動を控えていた一般企業への支援依頼も、供養業界だけに縛られることなく、シニア、子ども向けサービス・商品などを提供する企業も主軸の一つとして推進することができるようになりました。

また、Webクリック募金サービス、国際的インターネット企業の無償WEB広告などの支援を利用し、ご高齢者を中心とした一般個人からの寄付を募り、志ある方々の支援により小さな一歩ながら実績につながってきています。サテライトサイトとなる「ご供養寄付のおすすめ」のリリースにより、香典寄付など供養関連寄付も成果が出始めました。さらに、既に問い合わせのある遺贈寄付についての相談窓口含め注力していくと同時に、同時に、ライフエンディング関連業界についても個別に働き掛けを強化し、WEBでの供養に関する相談受付段階から寄付を前提とした供養プランをサプライチェーンから構築することを目指します。

さらに、最新のファンドレイジング手法を活動した支援金の獲得も強化と、税額控除証明の適用法人として「マイ基金」による資金調達の開始により、継続的な基盤強化を推進することで経年にて事業規模、助成額の大幅アップを目材していきます。

### 【財務的基盤のため】

#### ■賛助会員

決算月の変更により平成29年度は収益0円であったが、実施済の会員制度見直しのより新たに設置した賛助準会員や供養寄付を絡めた法人提案などなどにより、より多くの方にご加入いただくことを目指します。

#### 【平成30年度目標値】 合計 30万円 (平成31年度の会費)

会員種別	獲得数	会費収入目標額	
法人 旧賛助会員	2口	年会費 10,000円 × 2社 =	20,000円
法人 新賛助会員	5口	年会費 20,000円 × 6社 =	120,000円
法人 賛助準会員	10口	年会費 3,000円 × 10社 =	30,000円
個人 特別賛助会員	半期 1口	年会費 50,000円 × 0.5名 =	25,000円
個人 新賛助会員	5口	年会費 6,000円 × 5名 =	30,000円
個人 賛助準会員 0	15口	年会費 3,000円 × 25名 =	75,000円

## ■寄付

【平成30年度目標総額】 489万円

賛助会員、マンスリーサポーター、マイ基金の一般正味財産への振替額を含む  
内訳は収支予算書の通り

(※ うち、100万円は、既述の通り、平成30年度助成金を使途として指定正味財産への寄付)

### ◇寄附金の募集方法

法人賛助会員、当法人の役員、スタッフ、ボランティア、協力者、支援者、および DM、メール、SNS、などインターネット等の媒体を活用し、本法人の理念(児童支援)の賛同を募り、寄付金、支援金の募集を行う。

<募集対象>

1. 高齢者を中心にした財団活動に共感する個人
2. 少子社会、超高齢社会において様々な取り組みをしている企業、団体
3. ライフエンディング業界
4. 理事、アドバイザー、顧問等の関係者
5. 啓発、広報活動、税額控除証明法人であることにより、次の方法で寄附金の募集を図る。

### ◇平成30年度 寄付についての個別詳解

#### <マイ基金>

【基金種類別の設定額】

基金種類	設定総額	基金設定数
①永続基金	1,500,000 円	100万円×1 50万円×1
②期間基金	900,000 円	30万円×3
(上記のうち、供養関連基金)	(300,000 円)	(30万円×1)

マイ基金 設定目標値 合計240万円 (昨年度残 150万円と合わせ 390万円)

(指定正味財産から 一般正味財産 受取寄付金への振替額 500,000 円)

管理収益 設定費用 50,000 円

(内訳)	通常	スタート割引額
初期設定費	2,400,000 円×3% = 72,000 円	→ 24,500 円
運営管理費	3,400,000 円×1% = 34,000 円	→ 13,000 円
助成実施費	500,000 円×5% = 25,000 円	→ 12,500 円

上記メニューによる、マイ基金、賛助会員会費、寄付金、企業やWEBを通じた一般市民からの支援金、委託事業の受託費、および公益目的事業についての収益などのファンドレイジング全般による収入を財源とする。

### ＜マンスリーサポーター＞

賛助会員とはならない方で、かつ、毎月の寄附を希望する方を主に財団HPにて募る。

1口 300 円から決済も可能となるスキームも導入し、本事業年度に大幅増の新規獲得を目指す。

上期: 単月 18,000 円×6 か月 下期: 22,000 円×6 か月 合計24万円 の支援を目標とします。

### ＜理事による寄付＞

財務基盤強化のため、通常年度180万円(下方を参照)のところ500万円を計画しておりましたが、決算月の変更により平成30年度は通常年12か月が8か月となっていることもあり280万円の寄付を受領します。但し、うち100万円は平成31年度事業対象助成金を使途とし指定正味財産とします。

上記により、平成30年末の正味財産残高は 800 万円とする計画としています。

### ◇参照: 次年度以降の収益目標 年間 500 万円以上を確保する

#### ＜収益目標内訳＞

1. 賛助会員 会費収入 30 万円
2. 個人寄付 60 万円(マンスリーサポーター含む)
3. マイ基金(冠基金) 100 万円～
4. 法人寄付 100 万円～ (役員等の関連企業含む)
5. 公益目的事業の広報や啓蒙活動を通じた寄付 20 万円
6. 理事等による寄付 180 万円
7. その他支援金 10 万円～

※3.4.5.7については変更初年度目標値。今後更なる拡充を図っていく。

## 【人的・技術的リソース基盤のため】

下記を実施するために必要なボランティア人材としての仲間を募集します。

- ① ハンズオン支援とプログラムのために知見を有する支援スタッフ
- ② 助成先取材を実施するためのボランティアメンバー

### ■特徴ある助成事業の確立に向けた取り組み

再掲となるが、特徴ある助成財団として社会的ニーズの変化に対応すべく、新たな助成プログラムを策定・実験導入に向け、平成 30 年度は、独自助成プログラムの開発と本格導入の準備年と位置づけ、継続助成の導入開始(設定した要件をクリアする条件で1年更新型の最大3年の継続助成)

- ・事業アイデアとオペレーションのマッチング型助成のテスト
- ・継続助成の更新判断情報取得ためのリサーチを兼ねた助成先ハンズオン支援
- ・つなぐいのち基金の助成先ネットワークづくりの準備



## ■支援に向けた広報・啓発活動について

### 【広報活動について】

社会的課題や将来推計についてのデータやニュースを、学生やシニアのボランティアを中心に誰にでも分かりやすくまとめ、専用WEBサイト、SNS やチラシ、冊子などで発信していくことで、当団体をはじめ多くの活動を広報し、支援の必要性を伝えていきます。

定期活動報告書(年2回)や会報(随時)、リーフレットなどの発行も予定しています。

### 【運営・開催予定の広報活動リスト】

- ① これまでの対象事業 助成交付先の代表による 事業報告会兼5周年記念イベントの開催
- ② 子どもと高齢者に関わる課題等をテーマとしたフューチャーセッションの開催
- ③ 社会課題啓発とボランティアのコミュニティサイト(仮称「これからをつなぐ協働研究室」)の開設/運営
- ④ 広報活動を兼ねた ボランティア説明会の開催 (個別説明会を含め 年 20 回程度開催予定)
- ⑤ 広報活動を兼ねた「マイ基金」説明会の開催 (個別説明会を含め 年 5 回程度開催予定)

### 【寄付・支援金についての目標額】 60,000 円

下記の収益を計画しております。

前項目の① 寄付金・支援金として 50,000 円

前項目以外 寄付金・支援金として 10,000 円

※講師謝金、会場費、軽微な飲食の準備が必要な場合は実費用費相当額を徴収する場合があります。

### 【参加者の募集方法】

当法人のホームページをはじめ、日本財団や社会福祉協議会などの各中間支援組織が運営する情報掲載サイトやメールリスト、および無償掲載雑誌(例「公募ガイド」など)を通じて公示・募集する。

## ■高校生および NPO 法人との協働プロジェクト

平成 29 年度より都内私立高校の福祉ゼミに所属する高校生と協働プロジェクトを実施しています。

助成先の清掃やイベント支援などのボランティア活動、当財団の助成先への進捗状況の確認を兼ねた取材活動とレポート作成、報告会などの開催などを試験的に活動してきましたが、平成30年度は卒業生を運営ボランティアに迎え、更に参加対象を広げた活動を展開する予定です。

(参照)

当初目指してきたシニアを中心としたボランティアの組織化とコーディネート活動については、内閣府の立ち入り検査において当面は当財団内での実施は望ましくないとの見解を受け、ボランティアスタッフを中心として特定非営利活動法人を新設し継続することいたしました。

## 4. 管理運営体制

### ■組織体制強化の必要性

平成29年度目標である、公益法人として社会から信頼されるための事業のフィージビリティを確保、公益目的事業における着実な実績、新たな公益事業の領域の拡大と改善を申請と実行をするために当法人の組織体制の強化をいたしました。

「マイ基金」の運営については、民間公益活動の期待を寄せてくださった支援者への責任を果たし強固なガバナンスと確実なフィージビリティを確保し、より信頼される公益財団法人になる必要があります。

そのために、最高議決機関である評議員会の評議員の拡充、各業務執行分野においてより高い専門性と経験を有する理事の拡充、助成先をこれまで以上に適正に選定するための選考委員の拡充、という3つの組織の継続的な拡充が求められていると認識しております。

### ■財団全体のガバナンスのための評議員、監事の拡充

既述の平成29年度に拡充した各組織の役職者間の連携と啓発を実施していきます。

【評議員】 評議員会を一新し、平成28年度末定例評議員会決議にて下記の6名新体制へ移行済みです。

【監事】 税理士1名体制から、公認会計士、税理士の2名体制へ移行済みです。

【理事】 東証1部経営者、弁護士、非営利セクター経験者など代表理事を含め6名理事体制としています。

#### 公益財団法人つなぐいのち基金

#### 評議員・理事・監事一覧

役職名	氏名	勤務先等	常任理事
1 評議員	福岡武彦	三聖トラスト会計事務所 代表・税理士 前 公益財団法人つなぐいのち基金 監事	
2 評議員	立木順子	則武化学株式会社 監査役	
3 評議員	長谷川正人	社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会 理事長 福岡教育大学非常勤講師／鞍手町社会福祉協議会評議員／鞍手町しょうがい者福祉計画策定委員会委員 全国専攻科(特別ニーズ教育)研究会副会長／社会福祉士、精神保健福祉士／福祉サービス 第三者評価調査員 『知的障害者の大学創造への道～ゆたか『カレッジ』グループの挑戦』著者	
4 評議員	角田大憲	中村・角田・松本法律事務所 パートナー弁護士 元司法試験審査委員及び元司法試験予備試験審査委員	
5 評議員	小澤 浩明	東洋大学 社会学部 社会学科 教授 『格差社会における家族の生活・子育て・教育と新たな困難～低所得者集住地域の実態調査から～』著者 一橋大学大学院 社会学研究科 社会学問題 社会政策 卒	
6 評議員	角田弘子	日本ウェルネススポーツ大学准教授 専門 社会調査、医学統計 統計数理研究所客員准教授／順天堂大学医学部衛生学講座協力研究員 『東アジア価値観調査データの科学』(勉誠出版) 著者 『ソーシャルキャピタルで解く社会的孤立』重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望』(ミネルヴァ書房) 共著	
1 代表理事	駒居由記衣	公益財団法人つなぐいのち基金 代表理事 有限会社ouiii 代表取締役 『知的障害者の大学創造への道』発起人	○
2 副理事長	清水祐孝	株式会社鎌倉新書 代表取締役会長 公益財団法人つなぐいのち基金 副代表理事 社会福祉法人聖友ホーム 評議員	○
3 常務理事	豊住吉弘	公益財団法人つなぐいのち基金 常務理事 兼 事務局 助成プログラムオフィサー NPO(法人設立認証申請中)ささえあい Link-Age Project 共同代表理事／社会福祉法人聖友ホーム 法人本部 特定非営利活動法人NPOサポートセンター アソシエイト・フェロー／Future-LinkAge コア・チーム 事務局 Socio Curren representative／一般社団法人東京進行性筋萎縮症協会 賛助会員／(元)学生赤十字奉仕団	○
4 理事	下村朱美	株式会社ミス・バリ 代表取締役／株式会社シェイプアップハウス 代表取締役 内閣府男女共同参画推進連携会議 議員 一般社団法人東京ニュービジネス協議会 会長／公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会 福会長 公益財団法人日本ユースリーダー協会 理事／一般財団法人ソフインターナショナル・ビューティー試験センター 理事長	
5 理事	村尾昌美	ヒーリングフォトグラファー 村尾スタジオ主催 フォトコミュニケーション協会 代表	
6 理事	篠原一廣	篠原総合法律事務所 代表弁護士 日本交通法学会会員／日本賠償科学会会員 東京弁護士会 遺言信託部会／東京弁護士会紛調調停委員	
2 監事	安藤算浩	監査法人ナカチ 顧問 公認会計士 株式会社 経営管理ナカチ 執行役員 前 公益財団法人つなぐいのち基金 常任理事	
1 監事	増田美子	中田公認会計士事務所・税理士	

上記に加え、平成30年度に継続して、業務執行および広報強化のための理事の拡充を検討しております。

## ■助成選定委員会 選考委員の拡充

下記の新選考委員会に体制に加え、マイ基金の選考会に向け拡充を図り 10～15 名体制とすることを予定しております。

### 選考委員長 寺山 智雄

公益財団法人ヒューマニティ財団 代表理事  
NPO 法人 VisionaryTerras 日本 代表理事  
株式会社山クリエーション 代表取締役  
元 あしなが学生募金事務局長  
元 東京都議会議員(世田谷選挙区)  
元 公益財団法人日本盲導犬協会 参与・常任理事、専務理事

### 選考委員 池本 卯典

医学博士。博士(法学・CPU)  
日本獣医生命科学大学 名誉学長  
自治医科大学 名誉教授  
日本医科大学 顧問  
元 獣医師会獣医事審議会 委員  
元 日本比較臨床医学会 理事長  
元 私立獣医科大学協議会理事長  
エルウィン・フォン・ベルツ賞 受賞

### 選考委員 清水 祐孝

公益財団法人つなぐいのち基金 副理事長  
株式会社鎌倉新書 代表取締役会長  
慶応義塾大学卒業

### 選考委員★ 鞆居 由記衣

公益財団法人つなぐいのち基金 代表理事  
有限会社 ouiui 代表取締役  
人財教育コンサルタント  
AICI 国際イメージコンサルタント協会認定イメージコンサルタント  
日本色彩学会正会員(AFT1 級、ABP1 級)  
『知的障害者の大学創造への道』発起人

### 選考委員★ 山中 資久

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 経営戦略部 アソシエイト  
元 NPO 法人 ETIC. ソーシャルイノベーション事業部  
※西武信金、日本財団、ETIC.によるソーシャルビジネス向け融資「CHANGE」担当  
※東京都女性・若者・シニア創業サポート(融資) 地域創業アドバイザー  
※東京都地域中小企業応援ファンド助成事業 応援ナビゲーター  
※東北の復興支援プロジェクト 右腕プログラム 事務局  
元 人材広告系の大手代理店 マーケティング、新規事業担当

### 選考委員★ 田邊 健史

特定非営利活動法人 NPO サポートセンター 事務局次長  
東京都文京区「フミコム」(地域活動拠点)活動支援コーディネーター  
東京都中央区「協働ステーション中央」(協働推進拠点)チーフコーディネーター  
千葉県松戸市「まつど市民活動センター」アドバイザー兼ボードメンバー  
一般社団法人 Work Design Lab 理事

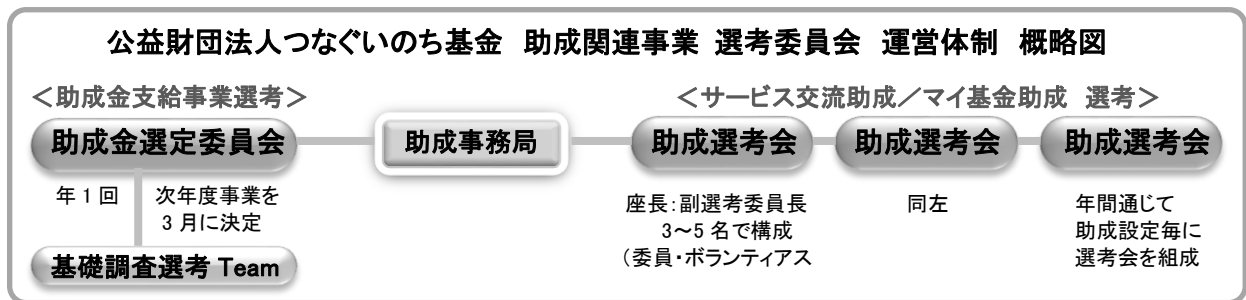
### 選考委員★ 清輔夏輝 (きよすけ・なつき) ※新任

NPO 法人チャリティーサンタ 代表理事  
1984 年生まれ、福岡県出身。国立有明高専 建築学科卒。建築設計事務所、IT フリーランス、株式会社サイバーエージェントを経て、2014 年より現職。6 歳のクリスマスにサンタさんから直接プレゼントをもらった経験が原体験。18 歳から始めたヒッチハイクで日本3周。千人以上の人と対話し、人の優しさに触れ「恩返しではなく恩送り」という価値観を知り、チャリティーサンタの活動を開始。現在は、1 万人の子どもに届けてわかった「サンタが来ない子ども達」へ思い出を届ける取組” ルドルフ基金 “などに注力中。

### 選考委員★ 豊住吉弘 (調査選考担当 議長 選定委員会事務局 助成プログラムオフィサー)

公益財団法人つなぐいのち基金 常務理事 兼 事務局長 (業務執行理事)  
NPO Socio Curren representative  
特定非営利活動法人 NPO サポートセンター アソシエイト・フェロー  
NPO 法人(設立認証申請中) ささえあい Link-Age 共同代表  
一般社団法人東京筋委縮症協会 賛助会員  
(元)学生赤十字奉仕団 (現 クローバー)

※ ★のある委員は、副選考委員長としてマイ冠基金助成の選考会議長を兼ねる。



## ■運営体制

### ① スタッフの拡充

#### ☑ボランティア

学生、社会人プロボノ、リタイア準備中のシニア予備軍、ご高齢者、それぞれをWEBの募集を中心に推進し、事業の実施に向けて体制づくりを行っていきます。

#### 【目標値】

当法人サポートボランティアスタッフ数 30名（学生10名 社会人5名 シニア15名）

#### ☑事務負担の軽減 業務委託

現在、無償役務にて運営されてきた業務執行、運営業務、事務の一部を業務委託して一部報酬化します。

### ② 運営組織の変更

#### ☑常任理事会の拡充

平成27年度までは「業務運営ミーティング」として計画策定や業務執行を行っていましたが、平成28年度より明確な組織として常任理事会を設置し、意志決定機関である理事会と計画策定・業務執行機関である常任理事会と役割を分けることで、当法人の運営能力の向上をはかりました。

平成30年度は、常任理事会のメンバーである現状不在となっている常任理事の拡充と、有識者、支援者、専門家等にて構成されるアドバザリーボードとしての複数名にアドバイザー、メンター、フェローなどを依頼する予定です。

以上